

見学会の実施は、校種を問わずいろいろな形で実施されている。学校行事として、社会見学という形で学年ごとや、場合によっては学校全体で実施される場合もあるし、修学旅行や林間学習などの宿泊研修のプログラムとして盛り込まれることも多い。しかし、授業における教科指導の一環として実施する場合には、前述のようなイベント色の強いものではなく、事前・事後の指導も含めた計画が必要であると考えられる。

これを分類すると以下のように考えられる。

* イベント色の強い、単発の行事として実施した場合の指導経過

事前指導

日程や、見学の際の注意事項など、主に現地における見学内容に対する指導
見学内容やコースを示して、これに基づいて何を見るべきかを考えさせる

当日

予定されたコースを見学し、事前に用意していた質問を行う
案内者の説明を受動的に聞く

事後

感想文を書かせる

* 授業の流れの中で実施する場合の指導課程

事前指導

何を見るべきか、何をみたいかを考えさせる
見学内容やコースを示して、これに対しての要望や質問事項を考えさせる

当日

見学の中で、自由に発問させ案内者に回答してもらう

事後

ふりかえりシートを書かせる
見学したことに対する評価を行う

事前指導において、より能動的な見学ができるように配慮し、生徒に自ら考えさせるきっかけ作りを行うように計画されている。

また、見学に対しての評価の観点としては、以下のようなものが考えられる。

- 見学に際してマナーが守れたか
- 案内者との間でインタラクティブな関係が形成できたか
- 見学を行って有意義な発見があったか
- 事前に抱いた疑問を解消できたか など

見学会の場合は、いろいろな社会の現場を見せるということで、見ること自体で、教師も生徒も満足感を得てしまえるので、事後の指導を徹底できない場合も多い。しかし、ふりかえりを行わせて、自らの変容を認識させることが、見学を行う際の、重要なポイントではないかと考えられる。見学内容の精査はもちろん重要なポイントであるが、生徒の「育ち」と「気づき」を大切にするために、事後指導の時間を事前に確保しておくことも、特に大切だと考えている。